第532回番組審議会報告

開催日 : 令和6年11月27日(水)
場所 : 山形グランドホテル
出席委員 : 柳谷豊彦 委員長/相馬佳苗 副委員長/中川愛美 委員/齋藤義紀 委員
堀内史子 委員/佐藤善哉 委員/中村 出 委員/兼田徳幸 委員
議事内容 : ◎社側報告

1. 挨拶 横沢代表取締役社長

◎審議事項

1. 番組・視聴率関連 黒須 取締役編成業務局長兼番組審議会事務局長
2. 報道・制作関連 後藤 取締役メディア情報局長
3. 番組合評

◇ 山形いちまる「池上彰と考える 豪雨災害から命を守るために」

令和6年10月23日(水) 19:00~19:54 放送

担当: 工藤 良一 メディア情報センター長

◎その他

内容:

山形テレビの第532回番組審議会が開かれ、10月23日(水)19:00から放送した山形いちまる「池上彰と考える 豪雨災害から命を守るために」を合評しました。

全国各地で豪雨被害が発生しているなか7月下旬、庄内・最上地方が記録的な大雨に見舞われた。河川の氾濫で3人が犠牲となり、土木、農業、商工関連をあわせて被害総額は1000億円を超えた。ジャーナリスト池上彰氏が被災地に入り、被害が拡大した原因や住民の避難行動について検証。また防災教育の第一人者と対談し、切れ目のない防災教育の意義なども伝えました。

委員からは、

「地方局による継続的な気象災害の検証番組。そこに地方局の存在理由や重さが感じられた」

「池上さんが対話しながら語り掛けることで、現地の人も自然体で当時のことを話していたように見えた」

「番組を通して戸沢村の水害の歴史を知ることができた」

「地元に災害の歴史が語り継がれていないことや、災害が起きてからの救助など課題があると改めて感じた」

「池上さんはわかりやすさの代名詞ともいえる。視聴者の理解が次第に深まる作りになっていた」

「改めて地元の人々の声を聞き、傷が深いと感じた」

「作り手の思いが伝わってきた」

「被災から3カ月後の放送。時間を置くことで冷静に振り返ることができる教訓もあると思う」

「視聴者の次の行動につながるような役立つ情報があれば良かった」

「災害に備えるために何か一つでも情報がほしいという感じで見えていたが、少し物足りなさがあった」などの意見が出されました。

以上